

平成27年度実施事業調査シート

■ 基本事項(事業の位置づけ)

No. 31	項目名	学びの教室開催費			主要な施策の 成果 ページ	97	担当 部署	教育委員会事務局 学校教育課
予算科目	会計	1	一般会計	総合計画 体系	分野	教育・青少年		
	款	10	教育費		基本方針	学校教育の充実		
	項	1	教育総務費		施策	教育内容の充実		
	目	3	教育指導費		当初予算における区分	新規施策・拡大施策・重点施策・ その他		
事業	411	学力向上推進費			↑ 該当するものを○で囲んでください			

■ 事業概要(実施内容)

事業の背景	(事業開始の背景は?実施に至った経緯は?) 中央教育審議会答申の第2期教育振興基本計画の中で、今後の教育のあり方の一つとして、学びのセーフティーネットの構築が提案されている。この流れを受けて本市においても、市立小中学校児童生徒の居場所づくりと基礎学力の定着をめざした学びのセーフティーネットの構築を図る必要がある。
事業の対象	(事業の対象、範囲となる人や物は何なのか?) 市内各小学校の小学5年生から中学3年生までで本教室への参加を希望する者
事業の目的	(この事業によって対象をどのような状態にしたいのか?) 子どもたちが学習習慣や基礎的な学力をしっかりと身につけていくため、義務教育段階における学びのセーフティーネットづくりを推進する。
事業の内容(取り組み)	(どういった仕事の内容を、どのような手法・やり方で実施したのか?) 小学5・6年生:1回45分、年間30回(国語科・算数科各15回) 中学1・2年生:1回50分、年間30回(英語科・数学科各15回) 中学3年生:1回90分、年間30回(英語科・数学科各15回) 放課後学びの教室の中学生はさらに年間5回の定期テスト前にテスト対策(3日間×5回:計15回自学形式)委託業者が選定した教材を使用しながら、派遣された教員免許を持った講師が指導を行った。

■ 予算・決算状況

		当初予算の状況					決算の状況・実績				
内訳・詳細	土曜日学びの教室	・保険料 200千円 ・委託料 2,900千円					土曜日学びの教室				
	放課後学びの教室	・保険料 200千円 ・委託料 3,580千円					放課後学びの教室				
事業費(千円)	合計	国県	市債	その他	一般財源	合計	国県	市債	その他	一般財源	
	予算・決算額	6,880		2,500	4,380	6,594			710	5,884	
	前年度比	225%					217%				
◆「当初予算額」と「決算額」の増減理由(事業の進捗状況等)		申込人数が定員に満たなかったため									
◆平成26年度事業費(千円)	合計	国県	市債	その他	一般財源	合計	国県	市債	その他	一般財源	
	3,052	2,034		224	794	3,041	1,991		185	865	

■ 事業所管部署による評価

	評価	項目	評価の理由・評価に関する説明
必要性	3	市民ニーズが高い	家庭の状況等で塾には行けないが、学びたい児童生徒が、リーズナブルな価格で学べる機会を設けることで、学力補充・学習意欲の高揚を図る点で効果的であった。
	4	市の他の政策よりも優先的に実施すべきである	
	4	対象および内容が類似する事業がない	
妥当性	1	法令により実施することが義務付けられている	第2期草津市教育振興基本計画にも「確かな学力の育成のため、学びのセーフティーネットを構築するために「学びの教室」を開催する。」と明記しており、全国的にも整備が進む方向にある。
	1	法令に定められた市の責務を具現化して実施する事業である	
	1	上位計画に明確に事業が位置づけられている	
	2	国・県・民間の類似サービスと重複していない	
	1	市民の基本的生活の維持・確保に必要な事業、または内部事務である	
効率性	2	他の手法に比べて効率のよい事業手法である	家庭の経済状況に大きく影響されず、「学びたい」「わかるようになりたい」という意欲をもった児童生徒が、学校以外にもその機会を求めて参加している。会場や内容を吟味工夫することで、わずかながら参加者を増やすことができた。
	4	コスト削減の余地はない	
	4	受益者一人当たりのコストは適正である	
	4	受益者負担や補助の割合に問題はない	
継続性	4	事業を継続することで、さらなる効果が見込まれる	会場・対象を拡大(4会場、小学5年生を追加)したことで参加しやすくなり、「ぜひ、来年も参加したい」という感想も増えた。
	4	所期の目的を達成しておらず、引き続き実施する必要がある	
	4	社会状況の変化に対応した事業内容である	
成果	3	当該年度の事業目的を達成できた	アンケートで「学力がアップした」と回答した子どもが87%と高く、子どもの基礎学力の向上に一定の効果があつた。
	4	受益者の評価が得られている	
	3	費用対効果が大きい	

↑ 次の4段階により該当する数値を記入してください。

(4.よく当てはまる。3.およそ当てはまる。2.あまり当てはまらない。1.ほとんど当てはまらない。)

■ 事業実施効果および課題、将来展望

事業実施効果	参加者は、落ち着いた様子で学習に望んでいた。特に中学生は、真剣な表情であった。事業終了後のアンケート結果によると、本教室に参加したことで学力がアップしたと感じている児童生徒は、87%となっており、基礎学力の向上には手応えがあつたと捉えている。「成績がよくなった」「来年も参加したい」という声もあり、継続して行っていきたい。平成27年度は、平成26年度に比べて教室数を増やし、土曜日学びの教室は人権センターと市民交流プラザの2か所、放課後学びの教室は、西一教育集会所と芦浦教育集会所の2か所、計4か所で開催することができた。市内全小中学校からの参加があり、草津市全域をカバーすることができた。					
事業に対する市民の意見、反応	平成27年度の教室終了時に来年もぜひ参加させたいという保護者の声もあつた。また、募集チラシを配布する前から「今年の学びの教室はいつから募集されるのですか」との問い合わせもあり、参加された方は前向きな評価をされている。					
事業の今後の課題、将来展望	4か所の会場で参加者数に差があり、定員に達した会場もあれば、少数で学習している会場もある。広報、啓発の方法、開催場所、内容等については、引き続き検討を続けていく。また、義務教育期間の学びのセーフティーネットを構築していくため、小学1年生から小学4年生までを対象とする放課後自習教室を平成28年度には開催していく方向である。					
※平成28年度の予算措置	予算額(千円)	合計	国県	市債	その他	一般財源
		7,794			7,050	744
	27年度比	113%				
	積算根拠	土曜日学びの教室 ・保険料 200千円 ・委託料 2,657千円 放課後学びの教室 ・保険料 200千円 ・委託料 3,337千円 放課後自習広場 ・報償金 1,400千円				

※ 当該事業が平成27年度に終了した場合は、当該事業に代わって措置した予算や関連予算を記載してください。